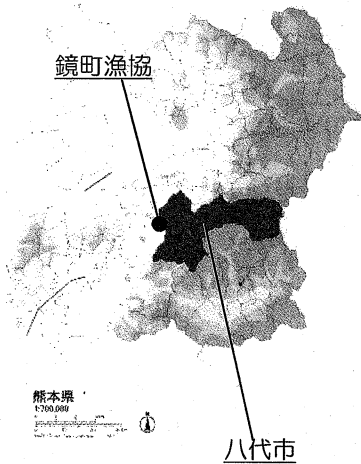


## 「アサリの資源管理に取り組んで」

鏡町漁業協同組合後継者クラブ

宮崎 大和

### 1 地域の概要



私たちの住む八代市は、八代海に面する県南部の中心に位置しています。平成 17 年 8 月 1 日に近隣の 6 市町村が合併し、新都「八代市」が誕生しました。現在の人口は 13 万 5,000 人となっています。

市の中心部では、早くから製紙工場や化学工場が創業し工業地域として発展してきました。

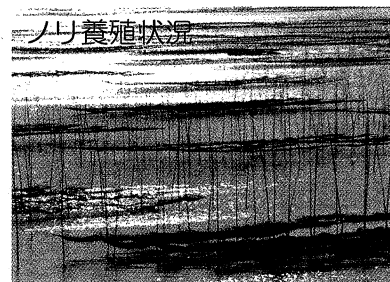
また、江戸時代から繰り返し行われてきた干拓事業により造られた広大な八代平野は、豊表に欠かせない「い草」の栽培や、「トマト」などの施設園芸を中心に、全国有数の農業地帯となっています。

### 2 漁業の概要

私たちの所属する鏡町漁協は、旧八代郡鏡町内にあった文政、鏡 2 つの漁協が平成 6 年 4 月に合併してできたものです。

現在は正組合員数 346 名、准組合員数 160 名、総数 506 名で構成されています。

主な漁業としては、八代海の広大な干潟を漁場とする、アサリ・ハマグリ等の採貝漁業とノリ養殖が主体となっており、特に「ノリ人工採苗発祥の地」として全国に名を馳せています。その他にもチヌ・ハモ・スズキのはえ縄や、羽瀬網（はぜあみ）と呼ばれる小型定置網漁業などが行われています。



### 3 グループの組織及び運営

昭和 34 年に「文政漁協青壮年研究部」として発足し、平成 6 年の漁協合併を機に「鏡町漁協後継者クラブ」と名称を改め、今年で通算 50 年という節目の年を迎えます。

当クラブは漁業後継者 16 名によって組織されており、環境保全活動等の共同作業に

よる事業収入と組合からの助成金によって運営されています。

#### 4 課題選定の動機

私は、冬場はノリ養殖、夏場ははえ縄漁業とアサリ採貝をそれぞれ主体として周年の漁業を営んでいます。

しかし、ノリ養殖においては、ここ数年、植物プランクトンの大量発生により栄養塩が不足し、本来は最盛期であるはずの1月から2月にかけて、ノリが色落ちしてしまうため不作が続いています。

はえ縄漁業においては、近年の魚価低迷が大きく影響し、採算面でとても厳しい状況です。

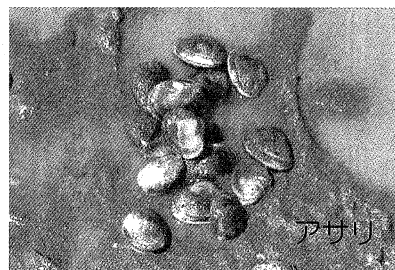
そこで、漁具への投資があまりかからず、単価が比較的安定しているアサリ採貝漁業は、私たちにとって魅力のある仕事となりますが、アサリ資源は変動が激しいため、漁獲量が大変不安定という問題があります。

このように、現状のままでは全く先が見えないことから、どうすれば現状を少しでもよくできるか悩んでいます。

そのような中、有明海の方では、アサリ稚貝の発生を促進するための取り組みや、貝類の食害で問題となっているナルトビエイの駆除を行い、加えて資源管理の取り組みの強化で、アサリの生産量が増加しているという話を聞きました。

私たちの漁協内部でも、「アサリが増えるよう、色々取り組みをやってみてはどうだろう。」という意見がでるようになり、いくつかの取り組みを始めました。

そこで今回は、私が所属している鏡町漁協後継者クラブの活動とともに、鏡町漁協におけるアサリ資源増加を目指した取り組みについて報告したいと思います。



#### 5 実践活動の状況及び成果

まず、鏡町漁協後継者クラブの活動状況について発表します。  
活動内容は、主に次の3つです。

##### ①環境保全活動

八代市の委託により、川から海へ流れ出て漁業の邪魔になる水草「ホテイアオイ」の除去作業をしています。

##### ②鏡町産業祭『愛鏡祭』でのイベント開催

中学生以下の子供たちを対象に、参加費無料でミニ網入れ大会を実施し、毎年恒例の人気イベントとなっています。

##### ③植樹活動

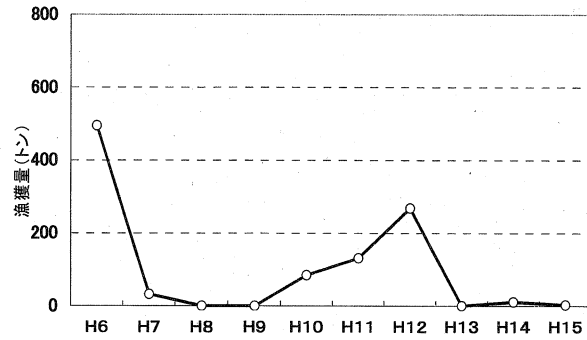
平成15年3月、漁民の森植樹祭を開催しました。この環境浄



化に向けた取り組みが評価され、鏡町漁協が平成 16 年度肥後の水資源愛護賞を受賞したことは私たちの誇りです。

次に、鏡町漁協におけるアサリ資源管理の取り組みについて報告します。

鏡町漁協におけるアサリ生産量の推移を見ると、平成 6 年は 500 トンあった生産量が、その後大きく落ち込みました。平成 12 年に一旦 268 トンまで回復しますが、翌年から漁獲が殆ど無い状況が 3 年間続きました。



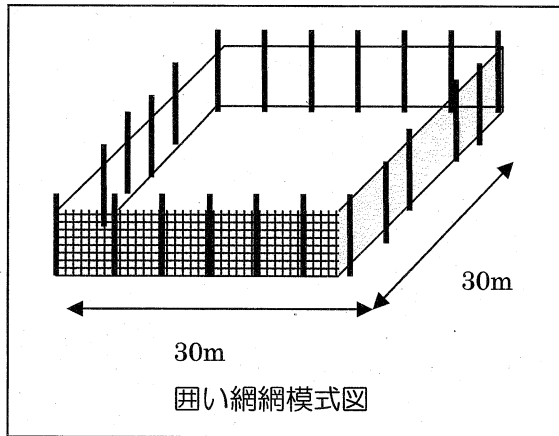
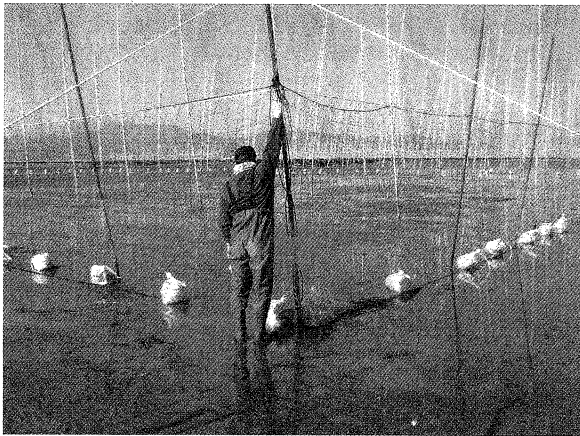
鏡町漁協におけるアサリ漁獲量の推移



アサリ着底促進施設

ひとつはアサリ着底促進施設の設置です。アサリ浮遊幼生の着底が促進されるよう、漁場に竹を林立させました。これにより、竹の直下およびその周辺に比較的多くのアサリがみられるようになり、その効果を確認しました。

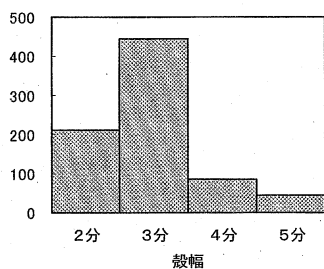
次に、外敵のナルトビエイからアサリを守る囲い網の設置です。平成 16 年 3 月に親貝を保護するため 30 メートル四方をイ草栽培用ネットで囲いました。施設内のアサリは食害を受けることなく成長し、平成 18 年 3 月には平均殻幅が 21.1 mm で 7 分貝の大きさになっていました。



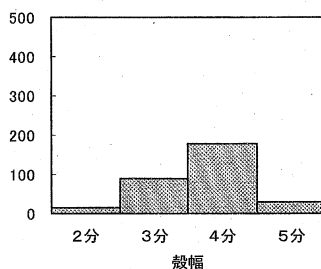
エイの食害防止に大きな効果があることがわかったため、今度は囲い網の中で稚貝を育てる試験を実施しました。

平成 17 年秋に、干潟の岸寄りで地盤の高い場所に稚貝が高密度に発生していたので、翌春になって、この稚貝の一部をアサリの生息が見られない干潟上に移植し、100 メー

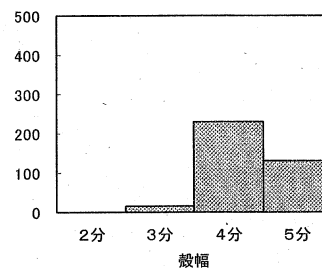
グラフ1  
(3/29) 分布密度(個/m<sup>2</sup>)



グラフ2  
(5/29) 分布密度(個/m<sup>2</sup>)



グラフ3  
(7/11) 分布密度(個/m<sup>2</sup>)



トル四方を囲い網で保護しました。囲い網内のアサリの分布状況は毎月追跡調査しました。移植当初のアサリの殻幅組成をグラフ1に示します。3分貝が57%を占め、2分、3分あわせて84%を占めていました。その後5月調査時の組成をグラフ2に示します。4分貝が58%を占め、3分、4分あわせて87%を占めていました。続けて7月調査時の組成をグラフ3に示します。4分貝が62%を占め、4分、5分あわせて96%を占めていました。その後は台風の影響で囲い網の一部を破損してしまいましたが、ナルトビエイの食害に対する防止効果が示唆されました。

平成18年からはアサリの積極的な食害対策として、ナルトビエイの駆除にも取り組みました。

私たちの仲間には網漁業を得意とする者がいなかったため、平成18年3月に有明海で実績のある熊本市の松尾漁業協同組合へ研修にうかがい、刺し網によるエイ捕獲のノウハウを教えてくださいました。



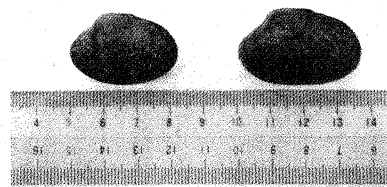
ナルトビエイ駆除状況

おかげで、年々技術も向上し、平成20年度は1,170尾、約16トンという捕獲実績を上げるまでになりました。ナルトビエイは1日あたり体重の10%の二枚貝を食すると言われており、単純に計算すると1年間でアサリ約600トンの保護に貢献したものと推察できます。

最後に、アサリの漁獲サイズ及び漁獲量の制限についてお話しします。

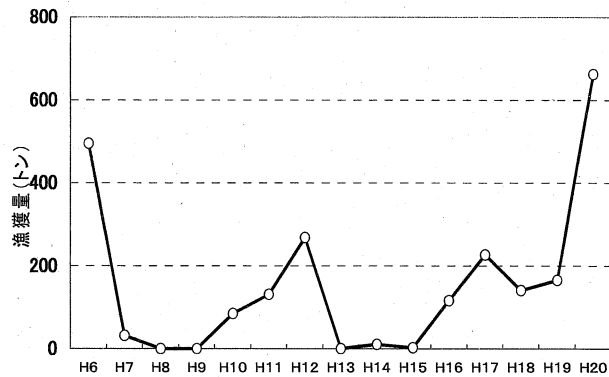
現在、熊本県内ではアサリ資源回復計画と絡め、漁獲サイズは4.0分貝以上です。これに基づいて4.0~4.5分貝を扱う組合が多い中、私たちの組合では、基本的に5.0分貝以上としています。4.5分(殻長約32mm)と5.0分(殻長約35mm)を比較すると、単価が1ネット(12kg入)当たり1,000円の差が付くこともあります。また、漁場に生息している貝の数には限りがあるため、できるだけ多くの産卵が期待できるよう、十分大きくしてから漁獲する方が長い目で見たら得だとの考えに基づく方策です。

4.5分貝 5.0分貝



一方、漁獲量については漁場の資源量にあわせて、上限を1日1経営体あたり4~9ネットの範囲で制限しています。

このような取り組みを経て、平成20年には660トンという熊本県内でもトップクラスの生産実績を上げることが出来ました。



鏡町漁協におけるアサリ漁獲量の推移

## 6 今後の問題点

アサリ採貝漁業は、設備投資がごくわずかですみ、所得率が高い漁業ですが、先ほど述べたように、アサリはとても不安定な資源です。八代海では数年に1度しか稚貝が大量発生していません。加えて、大雨が長引くと長期間、塩分の低い状態が続き、アサリが大量に死んでしまいます。

これら自然に由来する課題に対しても、これまでの経験と実績を生かし、親貝の確保、稚貝着底施設の増設、淡水被害を受けにくい干潟沖側漁場の活用や淡水防護柵の設置など、基本的な対策に力を注ぎ、今後とも県内トップレベルのアサリ産地として貢献したいと思います。

また、後継者クラブとしての問題点は、新規加入する部員が極めて少ないことです。

現在16名の部員が在籍していますが、30歳代の部員は3人、20歳代の部員は3人であり、このままでは現行の活動を維持していくことも困難になりつつあり、みな頭を悩ませているところです。

そこで、新規加入の促進は勿論ですが、組合女性部と連携を図ることで漁業の担い手として活動を行っていけばよいのではと考え、6年前から組合女性部が実施するEM団子作りに協力しています。



私たち鏡町漁協後継者クラブは、これまでの活動を継続しながら、さらに他の活動にも率先して取り組み、漁業の発展に寄与するとともに、子供や孫たちの代まで豊かな恵みのある海を残せるよう、精一杯頑張りたいと思います。

